



# 新聞圖會

第三

号

實ニ天罰ハ恐るベシ 親迦誕生會の夜ニ

當リ大阪近在本庄村ニ人殺シ有被されハ

京の徳松ト云壯年之其場ニ有一竹ト云

女を糾問有一梅之縁ある北野の

熊ト云私の情郎が殺シありト

ト云故熊を責れハ苦痛ニ堪ラズ

竹と徳ト云違華洲の上で

轉ぶを見附煩悩ヲ止メ

寺ニ掛まると白状

既ニ真鬼トあるべきを

竹の相談怪ト云

大困ト云て問落

熊を証シ極まりて

熊ハ命助ラリぬ然る小竹ハ其日より痘ト

嶽毒ト云同殺シテ痛陀の忌日ニ始魔の願

引渡されり此頃ハ津波の鏡ト云り罪の次第

を明白ありんと冥府の電信待との事ト

竹ハ生れハ丹波国氷上郡本郷村親ハ代々

ハコ尾善板



ハコ尾善板

獵人まで

親の罪が

報ひら

夫の家を

脱走

自由の

權ハ

姪ハ

上下の

口を

糊

居

る

英

婦あり

と云

舟木翁

都鳥

〜

〜

ホリ一平三

ハコ尾善板

